

令和5年度（2023年度） 学校法人福島聖心学園各幼稚園の事業報告書

【勿来カトリック幼稚園】

当幼稚園における令和5年度事業内容について、下記のとおり報告いたします。

1 項目別

項目	計画 (=plan)	実行 (=D o) /評価 (=Check)	改善 (=Action)
目的 (園則より)	この幼稚園は学校教育法第22条及び23条に従って幼児を保育しキリスト教に基づき、幼児に適当な生活環境を与え、心身の正しい発達を助長すると共に、道徳的心情、将来の善良なる社会人の健康と特性との基礎を作り家庭的教育を補うことを保育の目的とする。	本園は、神様からいただいた人としての命を尊重し、互いに助け合い、分かち合い、許し合う心を育て、人間関係の輪を深め、平和的な心を養っています。 家庭・保育者と共に心のかよった保育を目指して、感動する心、感謝する心、祈る心を大切にして充実していった。	令和6年度についても、同様の方針で教育目標に沿って保育を進めていく。
年間行事 について	積み重ねと継続を大切に各行事を挙げる。予定の詳細については、各幼稚園の年間行事予定表を作成し公表する。	新型コロナウイルス感染症対策として、時世の状況に応じ、人数制限を行ったり、逆に緩和策を講じたりと、その都度行事内容について職員と検討し充実した活動になるよう努めた。 ○夕涼み会（親子参加） ○サマーキャンプ（園内お楽しみ会に変更） ○収穫カレー会（野菜の切り方を昨年同様実施） ○茶話会（昨年同様実施） ○お迎え避難訓練（全園児）	令和6年度も年間行事計画作成にあたり教職員と前年の振り返りをふまえて協議していく。  ○食育のためさつまいも苗植え・収穫を全園児で行う。
新規事業 について	A バス車内確認アラーム装置設置	Aは予定通り設置 ・まずは職員が装置の使い方を把握し確実に利用出来るようにした。 また装置に頼らずとも園児の安全対策については職員一人一人の重要任務であり装置があることで決して甘んずることなく事故防止の意識をしっかりと持つように努めた。	今後も運転手・同乗者・担任との連携を取りながら、安心・安全なバス運行を行っていく。

<p>B ステンレス鉄棒設置 (低鉄棒3段設置)</p>	<p>Bは予定通り設置 従来の鉄棒に錆が目立ち始め、また、塀との距離も近かったため、園児が使用するにあたり、衛生面・安全面を考慮し位置を変えてステンレスの鉄棒を設置した。安全スペースが確保され美観の面でも好反応であり、園児が喜んで遊ぶ姿が見られる。</p>	<p>鉄棒に限らず今後も園庭の遊具の点検をしっかりと行い安心・安全な環境を整えていく。</p>
<p>C 子育て支援 ロッカーの購入</p>	<p>Cは予定通り購入 子育て支援の一環である預かり保育の人数が増えたため、それに見合うロッカーを購入した。 (子育て支援補助金)</p>	<p>預かり保育利用の園児に不足なく提供することが出来ているため、今後も状況をみながら対応していく。</p>
<p>D 遊戯室空調修理工事</p>	<p>Dは予定通り実行 何の予兆もなく空調が止まってしまうことがあり寒暖に応じて適切に使用できないため、空調修理工事を行った。 適切な温度管理が出来、園児の体調管理においても心配なく活動を行うことが出来ている。</p>	<p>空調に限らず今後も不具合の箇所がないか確認しながら遊戯室を活用していくようにする。</p>
<p>E セキュリティ強化措置の導入</p>	<p>Eは予定通り実施 パソコンデータのセキュリティー強化を目的にコンピューターウイルスの感染拡大防止装置を設置した。</p>	<p>今度も対策を推進していく。</p>
<p>F 指導計画パソコン入力</p>	<p>Fは予定通り実施 パソコン内でのデータ管理が出来るとともにそこで作業が完結するため、帳票等の事務作業の効率化が図られた。</p>	<p>今後も引き続き効率化を図り、働き方改革の一環となるようにしていく。</p>
<p>G 災害対応物(ベンリートイレ等)の購入</p>	<p>Gは予定通り購入 災害対策として備えることで、一つの安心材料となった。</p>	<p>今後も災害対策を怠ることなく必要な備品等の確認や補充に努めていく。</p>

<p>教職員の 資質向上に ついて (研修等へ への参加含)</p>	<p>園内外の研修に参加し、園児の保育の向上に力を注ぐ。</p>	<p>○自己評チェックシートにより、定期的に自己を振り返ることで、福島聖心学園の職員としてだけでなく、社会人としての意識を高めることが出来た。</p>	<p>今後も継続して行い、自己評価が保育の質の向上につながるようにしていく。また、評価状況により必要に応じて個別に面談を行っていく。</p>
		<p>○特性のある子どもへの理解のため、スクールカウンセラーの派遣事業を利用し、支援の仕方など適切な助言をいただきながら、保育に活かすようにした。</p>	<p>特性のある子は年々増加しており、対応の仕方も個々によることが多いため、今後もスクールカウンセラーの助言をもとに、専門機関とも連携をとりながら関わられるようにしていく。 また、専門的な研修に参加し特性のある子への学びを充実させることでインクルーシブ教育の実践を掲げられるようにしていく。</p>
		<p>○法人全体の学園研修に全員で参加することで、法人職員としての意識を高め、気持ちを新たに職務に当たることが出来た。</p>	<p>次年度も継続して研修に参加する。</p>
		<p>○カトリック研修に参加 県内のカトリック幼稚園の職員が一堂に会する研修に参加することでカトリック幼稚園の職員であることを改めて意識しカトリックの教えを子どもたちに伝える大切さを感じる事が出来た。</p>	<p>次年度も継続して研修に参加する。</p>
		<p>○救急救命講習を園内にて実施 (熱中症対策など)</p>	<p>○令和6年度も状況に応じた内容の講習を実施する。</p>

その他	未就園児親子教室の申し込み方法を検討	○未就園児親子教室及び園庭開放の開催日をHPで知らせ、ネットで気軽に申込ができるようにした。新規の申し込みが少し増えた。	○申し込みが入園につながっていくようにポスターやしおり配布を地道に行い、知名度をあげていく。（・北茨城まで範囲を広げてみる）
	外部ボランティア活動	○錦中学校JRCの活動を中心に行事の前準備として美化活動を担っていただき職員の時短に繋がった。	○令和6年度も同様に依頼する。
	保護者へのアンケート実施	○保護者の率直な意見が聞かれ、今後の幼稚園運営の参考となった。	○給食の回数を週3回から週4回に変更。お弁当はワクワクランチデーとして年4回取り入れる。 ○預かり日の検討

## 2 総括

- ここ数年 新型コロナウイルスによる生活の様変わりを余儀なくされてきたが、今年度は第5類感染症への移行に伴い、様々な面で生活の見直しが不可欠となった。  
少しずつ感染症への対応が緩和されつつも、最低限の感染症対策は怠らず感染拡大防止に努めた。  
行事においても職員間で十分に話し合いを行い、状況に応じた計画を立て子どもたちの期待や満足感を得られるように努めた。保護者に対しても子どもたちを預かるうえで安心・安全に努めていることを理解していただき、参加型の行事が行えるようにしていった。
- 今年度は改めて神父様からの講話等は設けられなかったものの、行事に来園していただいた際にお話をいただいた事を学びとし、カトリック幼稚園としての日々の保育を振り返りながら、その教えに添えるように努めた。
- 子どもたちが、より良い環境で生活出来るよう園内外の設備や遊具の安全点検を行い、問題箇所があった際には、修理工事等速やかに対応した。  
(すぐに着工出来ない事案もあったが計画には入っており、対応は出来ている)
- 幼稚園にとって最も切実な課題である園児数の獲得について、なかなか思うようにいかず、秋口に3園共通の保護者対象のアンケートを実施した。  
結果、保育内容等について大きな不満はないが、預かり日数や給食回数など多忙となっている保護者へのニーズに応じていく必要性を感じた。  
職員間で話し合い、預かり日や給食回数を増やすなど、出来ることから取り組むこととした。
- 帳票類等、パソコン上で完結できるようになったため、職員の事務作業が効率良く進んでおり、今後も継続し、働き方の時短につながるようにしていく。
- 園児数減少の中で、特性のある子どもの入園は増加している傾向が見られる。特性があるが故に他園に断られた園児がカトリック幼稚園を頼りとし入園につながる数は、園児数獲得の意味において見過ごせないものであり、今後もこの傾向は続くと予測される。  
その意味でも、職員が十分に特性のある子の対応に関わるスキルを身に付け受け入れに何ら問題がない態勢を整えていく必要があると思われる。  
職員がこの点について“大変”とするのではなく、やりがいを感じながら保育が出来るよう、専門機関との連携を密にし、自信を持って取り組んでいけるように努めたい。  
また、特性のある子への理解が示され、関われることは、健常な子たちへもより良い保育が提供出来るものと思われる。